

日本腎臓学会誌 CME特集によせて

日本腎臓学会の邦文機関誌である日本腎臓学会誌JJNを学術総会と東西学術大会の抄録号の2号以外は、今年からすべて特集号化し、「腎臓学この一年の進歩」に始まり、「ネフローゼ症候群」、「腎臓と骨代謝」、「糖尿病性腎症」、「CKD診療ガイド」と発行してきました。年8号発刊の最終号が、今回の「CME特集」です。年6回の特集号のうち、第1号の「腎臓学この一年の進歩」と第8号の「CME特集」は当面、毎年、同様の企画で継続する予定です。

今年から始まった特集のなかでも、「CME特集」こそが日本腎臓学会として最も特徴のある他に類を見ない企画になったと大いに期待しています。①共用試験、②医師国家試験、③認定内科医試験、④腎臓専門医試験、⑤セルフトレーニング問題、など腎臓学に関するすべてのレベルの試験問題を網羅し、かつそれぞれの問題に対して2人以上のエキスパートに解説していただきました。さらに、今井裕一教授のご尽力によりアメリカ腎臓学会のNephSAP®（自己評価学習教材）を翻訳することもアメリカ腎臓学会から無償で許可をいただくことができました。

このように毎年の「CME特集」は、腎臓学に関する各ステップでの試験問題とその解説集として、教員側からも受験者側からも貴重な資料になることは疑いもないと思われます。貴重な資料集を学会として発行できたことは、これを繰り返すことにより日本腎臓学会として大きな財産となり、学会員のみならず社会への姿勢を示すうえでも誠に喜ばしいと思います。恐らく、腎臓学会が他の学会に先駆けて成し得た新しい試みの一つと推測します。今後、例えば、東西学術集会で活発に討論されている症例検討やCPCなども要約して「CME特集」に含めることも検討してはと考えています。

最後に、この企画は、卒前卒後教育委員会（委員長 今井裕一 教授）を中心とする大勢の先生方の献身のご尽力のお陰で完成できたことに敬意を表すると同時に、この「CME特集」が色々な場面で積極的に活用され、真価を発揮してくれることを切に希望します。

2007年11月

日本腎臓学会編集委員長
木村玄次郎